

(様式第1号)

平成28年3月31日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦 様

新風

会長 菅野 定



政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要領第6条第2項により、平成27年政務活動報告をいたします。

記

1 研修事業

詳細は別紙1、2のとおり

2 会報誌作成事業

詳細は別紙3のとおり



別紙1

- (1) 実施日 平成27年11月14日(土)～15日(日)
- (2) 視察場所 二戸市埋蔵文化センター、九戸城跡、八戸市埋蔵文化センター是川縄文館、八戸市立博物館、八戸市史跡根城の広場、八戸市立図書館
- (3) 参加者 菅野定(会長)、及川修一(副会長)、三井俊介(事務局長) 3名
翔英会 大坂俊(代表)、丹野紀雄(幹事長) 2名
無所属 中野貴徳 1名

(4) 内容

◎11月14日(土)

ア 行程

8:30 陸前高田市発～釜石自動車道～東北自動車道～八戸自動車道経由～
11:30 二戸市着(昼食)

イ 視察

① 二戸市埋蔵文化センターと九戸城跡 13:00～16:00

説明員:文化財課長 安ヶ平義光 氏

文化財課主任 柴田知二 氏

当施設の概要、九戸実政についてや今後の方針について等の説明を
いただいた。

説明内容:複数箇所に分散して収蔵している埋蔵文化財の、有効活用を目的として、適切な保存処理、学術的な分類・整理・記録を施したうえ、一括管理のもとに収蔵し、これらを展示公開・体験学習に供するための総合的な施設を設置することとし、建設された。工事費は2億815円。当初年間1000人以上の来場者がいたが、国からの補助金がなくなったことをきっかけに来場者は半減した。現在は住民の方と供に、(仮称)第2次史跡九戸城跡整備基本計画の策定作業を行っている。

所感:お話を聞かせていただき大きく2点について学ぶことができた。

一つ目は、「その建物を作ることで、どんな人の流れを作り出した
いのか?」それを考えた上で建築物の立地や外観、そして展示内容
物を決めていくことが大切だと感じた。もう一点は、「市民の皆さ

んに史跡や文化財の本質的な価値を伝えるためにはどうするか？」という重要な視点もいただきました。

◎ 11月15日（日）

ア 行程

8:30 ホテル～八戸市埋蔵文化センター～博物館～史跡根城～図書館～八戸自動車道～東北自動車道経由～17:00 盛岡市（解散）

イ 視察

① 八戸市埋蔵文化センター是川縄文館 9:00～10:15

説明員：館長 古館光治 氏

参事 宇部則保氏 氏

来場者増加に対する取り組みについて等の説明をいただいた。

説明内容：是川遺跡、風張1遺跡などの発掘成果をふまえた展示や体験交流等を通じて、市民や来館者が地域文化の魅力を再発見し、誇りや愛情を感じられる郷土作りに資するとともに、埋蔵文化財センターとして、市内の遺跡から出土した埋蔵文化財の積極的な公開・活用、適切な保存管理につとめ、埋蔵文化財保護の重要性を伝えるための施設である。平成11年度から本格的な発掘調査に着手し、平成23年7月に当施設の開館へと至った。工事費は24億円。現在は、世界文化遺産登録に向けた周知活動や史跡案内標識の整備事業などを行っている。リピーターの獲得を建設当初から視野に入れ、常設展示だけではなく、企画展示が行えるようなフリースペースの完備、市民や観光客が楽しめる体験交流室、喫茶店なども備えてある。

所感：大きく2点について学ぶことができた。一つ目は、「ボランティアに博物館の運営に参加してもらうことについて」である。今では50名近くの方がボランティアとして参加してくださり、日曜講座を開いて土偶や土器作りなどを行っている。そして出来の良い作品は博物館の売店で販売され、売り上げはボランティアの運営費に使われるようだ。また博物館にある喫茶店であるが、その店員さんもボランティアで運営されている。こちらは建設段階で

「体験スペース」を確保していたことがまずは大きな成功要因でした。二つ目は、「企画展示スペースを作ることでリピーター獲得をする」ということだ。博物館は常に同じものが展示してあり、変わり映えがないと、二度目はなかなかこない。しかし、展示物を全て入れ替えるのはかなりの労力と予算が必要となる。そこで「企画展示」というアイデアがとても有効である。こちらも建設段階でフリースペースを用意していたのだ。そして各博物館などと連携を取って、季節ごとに展示物を全て入れ替えて、展示を行っていた。また企画展示をしていない時期には講演会を開催したり、市民講座を開いたりと多様な使い方をしている。これにより、市民の方も何度も足を運んでくれるようになったそうだ。建設前の段階で「どういう風になれば何度も足を運んでもらえるのか？」これをしっかりと計画立てることが大切である。

②八戸市立博物館と八戸市史跡根城の広場 10:30～12:00

説明員：館長 早狩博規 氏

主幹 下村恒彦 氏

展示物やボランティアガイド活用について等の説明をいただく。

説明内容：市内に埋もれている貴重な資料の調査収集及びその研究・整理を行い、その成果を展示・公開して八戸の歴史や風土を通案できる施設の設置をめざし、さらには修造資料をもとに広く教育普及に努め、もって学術・文化の発展に寄与することを目的に博物館法に基づいて人文系の総合博物館として設置されたものである。昭和54年に建設調査費を計上し、昭和58年7月に八戸市博物館として開館した。工事費15億円。平成26年度の来館者数は20,460人と前年度よりも約4000人増加した。また史跡根城の広場は昭和16年度に国指定史跡に認定され、昭和60年度から環境整備事業が開始した。平成6年度に史跡根城の広場として開園した。平成6年度から26年度までの間累計で360,921人が来園した。

所感：近年来場者数が増加傾向にあるがその要因が二つあった。ひとつは通

年でイベントを企画していることがあげられる。1ヶ月単位での企画展のみならず。市民クラブ活動として博物館クラブの運営を行い、市民の利用を促進している。また博物館と史跡根城の広場と連携してのイベントを開催していることから両方の来場者が増えている。二つ目の要因はボランティアガイドさんの存在だ。こちらは現在50名近くのボランティアさんがおり、何チームかに分かれて運営を行っている。そしてそのガイドが青森の方言で行われ、おじちゃんのダジャレなども混ざっており、決してパッケージ旅行の添乗員ガイドさんでは味わえない楽しさがあった。地域の文化や歴史を知っている、しかもそういうことを外の人に知ってもらいたいという地元の方に参加いただいていることが、この場所の価値を高めていると感じた。

③八戸市立図書館 13:30～15:30

講演者：東北学院大学文学部 教授 七海雅人 氏

「鎌倉時代糠部の世界」についての講演拝聴させていただいた。

講演内容：「糠部」という地域の特徴についてから講演は始まり、その後、「鎌倉幕府による陸奥国掌握の体制」から「糠部の地頭北条氏と給主たち」というテーマでお話いただき、最後に「糠部に生きた人々」についてお話いただいた。

所感：「糠部」という地域の特性が現代の産業にも影響を及ぼしていることが印象に残った。昔、八戸は港として重要な拠点であったこと、そして八戸市で見つかった漆器の模様と同じものが北海道でも見つかったことから、鎌倉時代から蝦夷地と貿易が行われたいたということは現代の文化活動にも何がしかの影響がでていると推測される。

別紙2

- (1) 実施日 平成28年2月5日(金)～6日(土)
- (2) 視察場所 宮城県南三陸町：株式会社ガイアサイン、株式会社カネキ吉田商店、NPO法人底上げ、定住促進住宅
- (3) 参加者 菅野定(会長)、及川修一(副会長)、三井俊介(事務局長) 3名

(4) 内 容

◎2月5日(金)

ア 行程

7:00 陸前高田市～株式会社ガイアサイン事務所～株式会社カネキ吉田商店事務所～南三陸町ポータルセンター～シェアハウス～南三陸町研修センター(宿泊)

イ 視察

① 株式会社ガイアサイン 10:00～12:00

説明員：佐藤敬生 氏

北子貴久 氏

「復興応援アルバイト」事業と「シェアハウス」事業の説明を受ける。

説明内容：人手不足で困っていらっしゃる企業さんに、町外からアルバイトを募集し、マッチングを行なう「復興応援バイト」の取り組みについて説明を受けた。この3年で、100人が実際に訪れ、実際に20人が定住した。その背景には「仕事」だけでなく、「住居」と「移動手段」も提供していることがある。

所感：専門性をもった民間企業が、被災地の実情にあわせてそのノウハウを生かし、どんどん既成事実を作り出していく事が大切だと感じた。また当市においても実現可能なモデルであるから、ぜひ当市でも実現させたいと感じた。

②株式会社カネキ吉田商店 13:30～14:30

説明員：代表取締役 吉田信吾 氏

「復興応援アルバイト」の受け入れに関する説明を受ける。

説明内容：復興応援アルバイトでの受け入れ体制についてや効果について説明を受けた。効果として、責任感の強い方が来てくれ、2週間もいれば業務改善の提案などもしてくれるそうで、従業員のパフォーマンスの向上にも寄与してくれるそうです。そして、これは社長自身も思ってもみなかった事だそうですが、バイトで来てくれた子は休日は地域活動などにも積極的に参加をしてくれるそうで、地域住民からも喜ばれているそうです。

所感： 社長の人柄のよさがお話から滲み出ていたのが印象的だった。それが外からきたアルバイトの子が、この町を好きになり、定住に結びついていくものでもあるのだなと感じた。たしかに制度や環境作りは大切だが、「人と人」がしっかりと結びつく事が何よりも移住定住では重要だと感じた。

③NPO法人底上げ 15:00～16:00

説明員：野田篤秀 氏

総合学習の授業を受け持つことになった経緯や内容について説明を受ける。

説明内容：志津川高校1年生、2年生の総合学習15時間を全て受け持つて行う。その授業では、「視点を変えながら、チームで町に貢献していく」ということを大切にしている。また学校の中で自習できる環境を準備し、相談員が常駐する。この取り組みは海士町や津和野町などの取り組みを例にしている。志津川高校は存続の危機にあり、現校長先生が旗振りをして、民間や行政と手を取り合いながら進めている。

所感：これにかかる事業費は全てNPO法人底上げで負担するというところにまず驚いた。また成果がでるのは10年以上かかるだろうと考えると、とてもワクワクするプロジェクトであるとともに、行政としてできることがもっとあるだろうということは感じた。説明担当者の

「町として、子供の教育にどれだけ本気になれるか？どれだけの予算をつけることができるか？というのは大切だと思う。」という言葉が胸に残っている。

◎ 2月6日（土）

ア 行程

9：00 南三陸町研修センター～定住促進住宅～陸前高田市 15：00

（解散）

イ 視察

① 定住促進住宅 9：30～11：30

説明員：館長 小川紗絵子 氏

経緯や住み心地について説明をうける。展示物について等の説明を受ける。

説明内容：町役場の事業である。仮設住宅3棟を取り壊し、使用できる部品を使い、新たに5名が住める定住促進住宅を作った。入居条件としては、「現住所が町外の方で、入居後に住民票を南三陸町に移す事」。2Kで平成30年までは家賃1万2000円、それ以降は2万4000円。再利用に関する主な費用は、解体工事に約380万円、運搬費に約30万円、新設工事費に約2470万円で合計2880万円。

所感：やはり仮設住宅をベースにしているので、壁が薄く、隣の話し声などはかなり聞こえてしまうようだ。そういう仮設住宅ならではの不便さを上手く解消しながら、高田でもこれから進む仮設住宅の取り壊し事業の中で、それを再利用することはできないか？有効活用することはできないかを考えてみたい。

別紙 3

- (1) 実施日 平成27年3月30日 (月)
- (2) 依頼場所 タクミ印刷株式会社
- (3) 内 容 半年間の成果をまとめた会報誌第1号を作成、4000部印刷した。